

2025年3月期 第3四半期連結決算ハイライト

阪和興業株式会社
(単位：億円 億円未満切捨て)

2025年3月期 第3四半期決算の概要

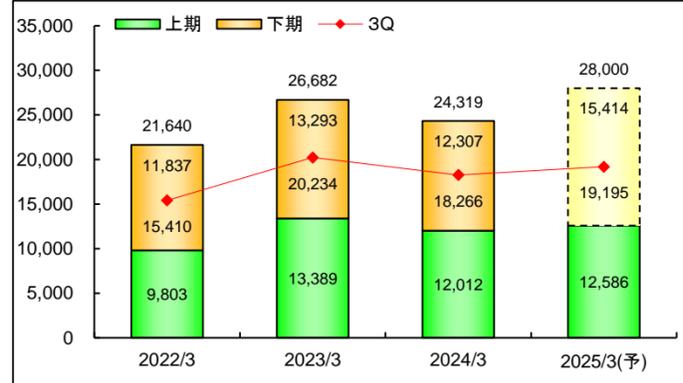
・本年度第3四半期決算は、エネルギー・生活資材事業やリサイクルメタル事業を中心に取扱数量が増加した結果、売上高は前年同期比5%増の1兆9,195億円となりました。加えて、鉄鋼事業や食品事業の利益率の改善もあり、営業利益は前年同期比12%増の473億円に、経常利益は前年同期比1%増の432億円に、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比3%増の317億円となりました。

・年間配当は210円（中間配当105円、期末配当105円）を予定しております。

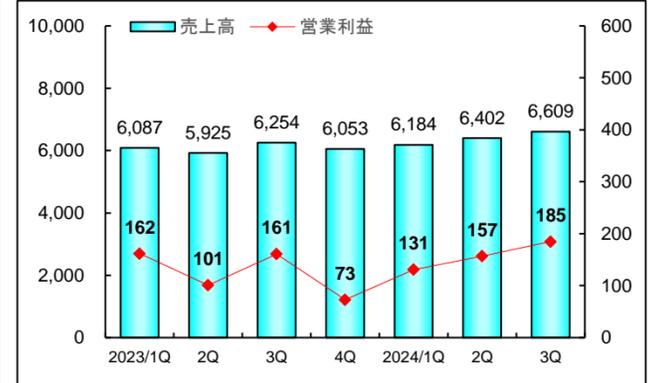
経営成績	前第3四半期 (累計)	当第3四半期 (累計)	前年同期比		主な要因
			増減	増減率	
売上高	18,266	19,195	929	5%	<p>(売上高) エネルギー・生活資材事業やリサイクルメタル事業を中心に取扱数量が増加した結果、売上高は前年同期比5%増の1兆9,195億円となりました。</p> <p>(販管費) 前年同期比で45億円（新規連結子会社の影響額は10億円）の増加でした。その内、人件費は30億円（新規連結子会社の影響額は6億円）の増加でした。</p> <p>(営業外損益) 営業外収益は19億円減少、営業外費用は27億円増加しました。経常利益に対する主な影響は以下の通りです。 持分法投資利益：前年同期比で21億円の減少 為替差損：前年同期比で27億円の増加</p> <p>(特別利益) 固定資産売却益：前年同期比で11億円の減少 投資有価証券売却益：前年同期比で12億円の増加 関係会社出資金売却益：当期において9億円の発生</p> <p>(特別損失) 投資有価証券評価損：前年同期比で11億円の減少</p>
売上総利益	944	1,038	94	10%	
販管費	519	564	45	9%	
営業利益	424	473	49	12%	
営業外収益	101	82	△19	△19%	
営業外費用	96	123	27	29%	
経常利益	429	432	2	1%	
特別利益	17	27	10	60%	
特別損失	11	—	△11	—	
税引前四半期純利益	435	459	24	6%	
法人税等	122	143	20	17%	
四半期純利益	312	316	3	1%	
親会社株主帰属分	307	317	10	3%	
非支配株主帰属分	4	△1	△6	—	
E P S	756.66円	786.75円	30.09円	4%	
四半期包括利益	404	272	△132	△33%	

財政状態	前期末	当第3四半期	前期比		主な要因
			増減	増減率	
総資産	11,669	11,671	1	0%	(総資産) 投資有価証券の増加や売上債権の減少などにより、前期末比0.0%増となりました。
(流動資産)	9,171	9,072	△99	△1%	
(固定資産)	2,498	2,599	101	4%	
負債	8,102	7,935	△166	△2%	(負債) 仕入債務の減少などにより、前連結会計年度末比2%減となりました。有利子負債は4%増加し、Net DERは0.9倍(*0.7倍)となりました。
(グロス有利子負債)	3,654	3,816	161	4%	
(ネット有利子負債)	2,889	3,160	271	9%	
Net DER	0.8/0.7*倍	0.9/0.7*倍	0.1倍	4%	(純資産) 親会社株主に帰属する四半期純利益からの利益剰余金の積み上がりや為替換算調整勘定などの変動により、前期末比5%増となりました。自己資本比率は、前期末比1.5ポイント上昇の31.6%(*33.7%)となりました。 (*ハイブリッドローン考慮後のNet DER及び自己資本比率)
純資産	3,567	3,736	168	5%	
(株主資本)	3,042	3,260	217	7%	
(その他の包括利益累計額)	469	423	△46	△10%	
(非支配株主持分)	55	53	△2	△4%	
B P S	8,636.03円	9,120.97円	484.94円	6%	
自己資本	3,512	3,683	171	5%	
自己資本比率	30.1/32.2%	31.6/33.7%	1.5pt	5%	

【売上高推移】

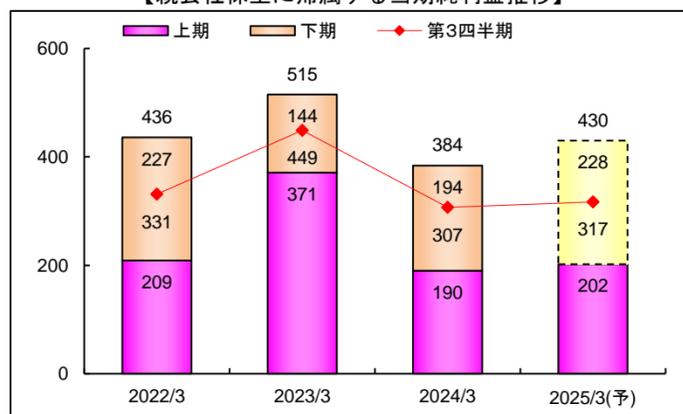


【四半期業績推移】

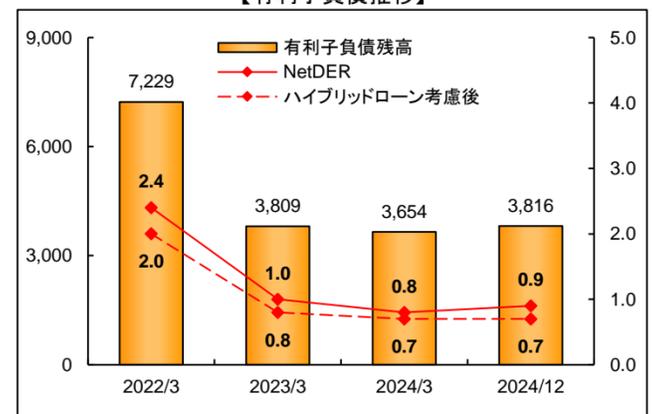


セグメントの状況	売上高			セグメント損益(経常損益)			主な要因
	前第3四半期	当第3四半期	増減率	前第3四半期	当第3四半期	増減率	
鉄	9,089	8,733	△4%	221	236	7%	<p>(鉄鋼) 各種鋼材の取扱数量が減少したことが収益を押し下げました。一方、国内建設分野が堅調に推移したことや、一部の海外子会社で採算が改善したことが利益を押し上げました。</p> <p>(プライマリーメタル) 海外向け取引が拡大したものの、各種商材の市況が下落したことや、SAMANCOR CHROME HOLDINGS PROPRIETARY LTD. からの持分法による投資損益がマイナスに転じたことが利益を押し下げました。</p> <p>(リサイクルメタル) 貴金属地金やアルミスクラップの取扱数量が増加したことが収益を押し上げました。また、ニッケル相場が前年同期に比べ安値で推移した影響はあったものの、銅・アルミ相場などが堅調に推移したことが利益を押し上げました。</p> <p>(食品) 取扱数量は横ばいであったものの、カニを中心に食品価格が前年同期に比べ高値で推移したことが収益・利益を押し上げました。</p> <p>(エネルギー・生活資材) 船用石油関連の取扱数量が大幅に増加したことが収益を押し上げました。また、化学品関連の取扱数量の増加や販売単価の上昇が収益・利益を押し上げました。</p> <p>(海外販売子会社) 中国において新規取引が拡大したほか、従来持分法適用非連結子会社としていた拠点を、重要性が高まったことにより連結子会社としたことが収益増加に寄与しました。一方、アジア地域を中心に鉄鋼製品価格が前年同期に比べ安値で推移したことが利益を押し下げました。</p>
銅	1,411	1,427	1%	64	29	△54%	
プライマリーメタル	1,303	1,786	37%	17	29	68%	
リサイクルメタル	981	1,080	10%	10	22	103%	
食品	2,474	2,843	15%	51	76	49%	
エネルギー・生活資材	2,588	3,222	25%	65	62	△5%	
海外販売子会社	17,848	19,093	7%	431	456	6%	
報告セグメント計	1,014	997	△2%	25	15	△42%	
その他	18,863	20,090	7%	457	471	3%	
合計	△597	△894	50%	△27	△39	44%	
調整額	18,266	19,195	5%	429	432	1%	
PL計上額							

【親会社株主に帰属する当期純利益推移】



【有利子負債推移】



通期の見通し	前期実績	通期業績予想	
		対前期増減率	対前期増減率
売上高	24,319	28,000	15%
営業利益	497	610	23%
経常利益	482	600	24%
親会社株主に帰属する当期純利益	384	430	12%

配当の状況	前々期末実績	前期末実績	当期予想				
				中間期	期末	年間配当*	DOE
中間期	50.00円	85.00円	105.00円				
期末	80.00円	100.00円	105.00円				
年間配当*	130.00円	185.00円	210.00円				
DOE	—	2.7%	2.8%				

トピックス

4月 阪和ビジネスパートナーズ株式会社を設立。
5月 連結子会社であるPT. HANWA INDONESIAがインドネシアの電炉メーカーであるPT GARUDA YAMATO STEELの株式の15%を取得し、持分法適用。
7月 シンクス株式会社の株式の100%を取得し、連結子会社化。
9月 株式会社マルゴ福山水産の80%の株式を取得し、グループ会社化。

* DOE (株主資本配当率) = 配当総額 ÷ 期首株主資本